



# <特集> 全国津々浦々の海岸林

海岸線の長い日本には海岸林が各所に存在します。プロジェクトでは、被災地とりわけ「名取市民の森」の将来を考えるため、日本各地の海岸林を訪れ、管理方法、利活用の方法などを調査(※)しています。今回はその一部をご紹介します。  
(※『海岸林と地域の将来ビジョン形成調査』(協力:経済同友会))

## ⑤ 虹の松原 (佐賀県唐津市)

面積 約 220ha (幅 500m前後、長さ 4.5km)

玄界灘に面する虹の松原は、江戸初期、初代唐津藩主が1595年から1616年まで約20年の歳月をかけて、北西の強い季節風から領地を守るため、砂丘にクロマツを植栽し育成したことに始まるとされている。虹の松原は、三保の松原(静岡県静岡市)、気比の松原(福井県敦賀市)とともに日本三大松原の一つであり、国の特別名勝、玄海国立公園に指定されている。国・佐賀県・唐津市・NPO(唐津環境防災推進機構 KANNE他)などが中心となり、松葉かき、枝・松ぼっくり拾いなどの再生・保全活動に年間6,000人以上が参加している。



虹の松原のキャラクター「虹松まもるくん」



(上左) 鏡山展望台から虹の松原を望む。後背地には豊かな農地が広がっている

(左) 樹齢300年ほどの松。江戸時代初期に植栽したものと思われる

(下) 国の特別名勝に指定されているため、落ち葉が掃かれ、砂地が見える状態で松林を維持することを目標としている。袋に入っているのは松葉。年間約1,000トン発生する



## ② 風の松原 (秋田県能代市)

面積 760ha (幅 0.4~1.2km、長さ 14km) 樹齢 40年~150年

日本海に面する能代は古くから飛砂により家屋や農地が埋没する被害を受けてきた。1711年に植栽が始まり、荒廃と植栽を繰り返し、現在は日本最大級の松原としてそのすばらしい景観を誇っている。年間を通じて市民ボランティアによるゴミ拾いやニセアカシアの芽かき、松の枯れ枝拾いなどが行われている。毎年4月には、市民・企業・団体・高校生など多くの参加を得て「風の松原を守る市民ボランティア大会」が開催されている。



砂防林としての機能の他、憩いの場所として多くの市民に親しまれ、散歩やジョギングなどに利用されている



展望台から風の松原を望む。写真には収まりきれないほど広範囲に及び



砂に埋もれた看板に飛砂の多さをうかがい知る。この地で安心して暮らすには防砂が必要不可欠



## ④ 津田の松原 (香川県さぬき市)

面積 12ha (幅 100m、長さ約 1km)、樹齢 ~600年



駐車場、トイレ、遊具などが整備されているため遠足などで訪れる児童も多い

鎌倉時代にお寺の住職が防風林として植栽したのが始まりで、その後1600年に城主の命により補植され、以来、樹齢600年の400本余りの古松を含む約3,000本が約1kmにわたり植えられている。津田の松原は、道の駅、食堂、駐車場、遊具などが整備され、親しみやすい森となるよう様々な工夫がされている。



看板に熊手がかけられ、松林の維持管理に訪れた人への参画を促す仕掛けがある



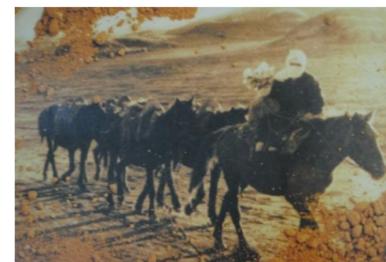
夏になると20万人を超える海水浴客で賑わう。毎年ビーチバレーフェスティバルやクロスカントリー大会などが開催されている



吟行ポスト(短歌・俳句・川柳)年1回選句し、入選句は市広報に発表され、市特産品を贈られる

## ① えりも国有林 (北海道えりも町)

面積約 200ha (幅 0.3~0.6km、長さ 7km)、樹齢 1年~53年



『荒れ果てたえりも岬は、風が吹くたびに泥や砂が舞い、荷を運ぶ人と馬の様子は、砂漠に行くキャラバンの様です。撮影年 昭和28年』(※)



『緑化事業開始前のえりも岬の全景です。大地は緑を失い、海は実に汚れており「えりもの春は何もない春でした」 撮影年 昭和28年』(※)



『草の種と肥料をいっしょにまいているところです。(前方) まいた後、レーキで土と種子をかき混ぜているところです(後方) 撮影年 昭和42年』(※)



写真内に設置の看板には「緑化に着手する前。風により赤土が舞い上がり海が真っ赤になったという(1961年頃)」と記載されている。同じ場所とは思えない程、今では緑に覆われている



(※) 展望台に設置のパネル資料より



『海は澄み、活気に満ちたえりも岬市街の現在の状況です。』(※)

『ここは砂漠?いいえ、荒廃し「えりも砂漠」と呼ばれていたころのえりも国有林です。失った自然を回復するため、昭和28年から緑化事業が始められ、現在ではすっかり緑に覆われています。』(北海道森林管理局設置の看板より引用)との言葉通り、日本とは思えない光景が広がっていた昭和20年代。住民の努力が実を結び、今では一面緑で覆われる森となっている。住民の意識は極めて高く、植樹祭や育樹祭には5人に1人が参加するという。

## ③ 遠州灘海岸林 (静岡県御前崎市、掛川市、袋井市、磐田市、浜松市、新居町、湖西市)

面積 950ha (幅 0.03~0.1km、長さ約 70km) 樹齢 20年~140年

冬季の強い季節風「遠州のからっ風」により、天竜川から供給される砂が内陸に吹き上げられて畑を埋めるため、1573~1591年頃から農民が防風林の造成を始めた。以来、強風と飛砂の被害から人々の暮らしを守ってきた。



この地域ではこの看板を度々目にする。イラストで海岸林の役割が理解できる



袋井市浅羽に設置されている看板。近年、地元の人々、ボランティアから市民の手による再生活動が盛んになってきた



「舞阪監視哨」跡。終戦間際、ここに16~17歳の青年が常時米軍の監視に当たっていた。現在は公園として整備されている(浜松市舞阪町)